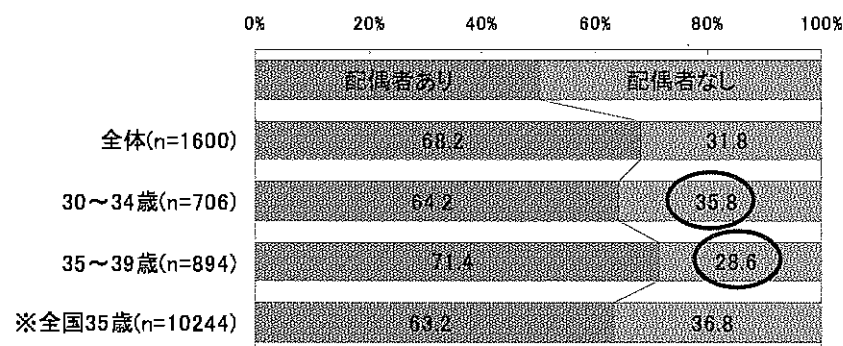

「30代の実態に関するアンケート調査」速報まとめ

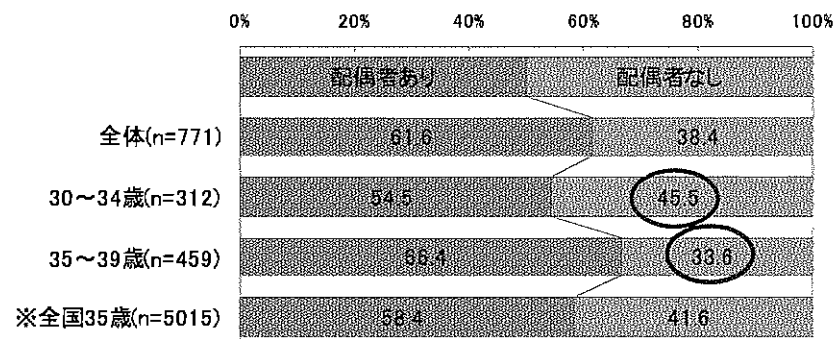
結婚の状況 ～未婚化～

- 30代前半の36%、30代後半の29%は独身
- 男性30代前半の46%、30代後半の34%は独身
- 女性30代前半の28%、30代後半の23%は独身

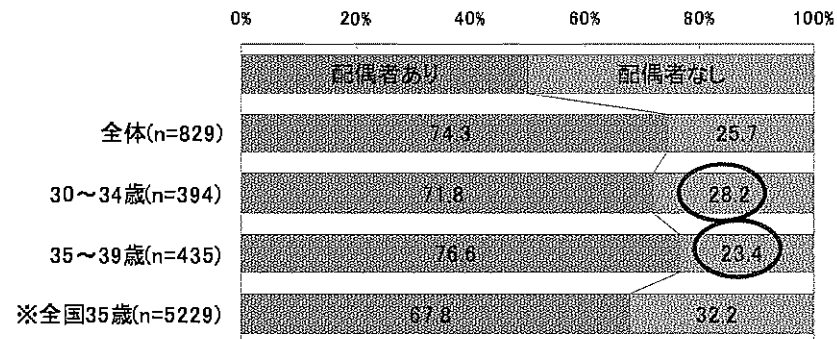
配偶者の有無(全体)



配偶者の有無(男性)



配偶者の有無(女性)

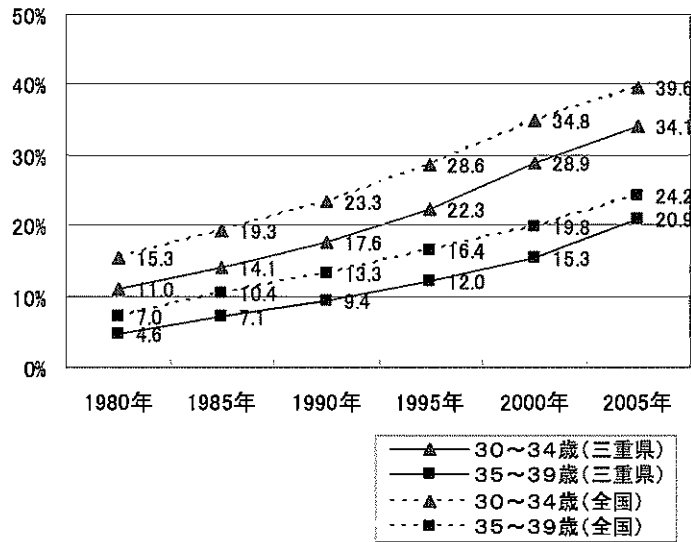


※「全国35歳」のデータは三菱総合研究所とNHKが2009年3月に全国の35歳約1万人を対象に行ったアンケート調査の結果、以降同じ調査方法：インターネットアンケート調査
 調査期間：2009年3月18日～24日
 対象者：全国の35歳
 回答数：10,244人(男性5,015人、女性5,229人)

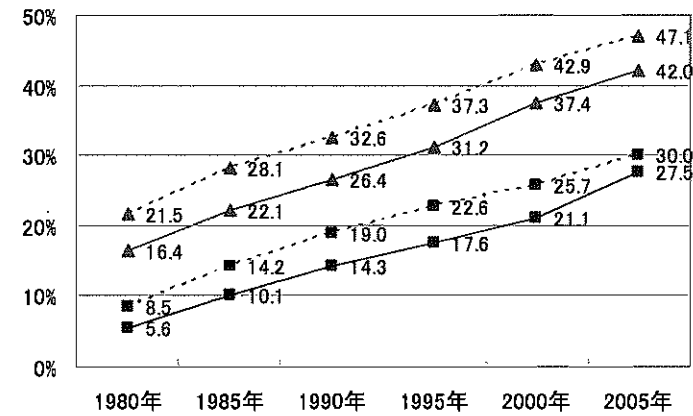
【参考】統計データより ～30代未婚率～

- 未婚者の割合はここ10年で30代前半で12%、30代後半で9%、ここ20年で30代前半で20%、30代後半で14%増加
- ただし未婚者の割合は、全国平均と比較すると30代前半で6%、30代後半で3%低い(2005年時点)

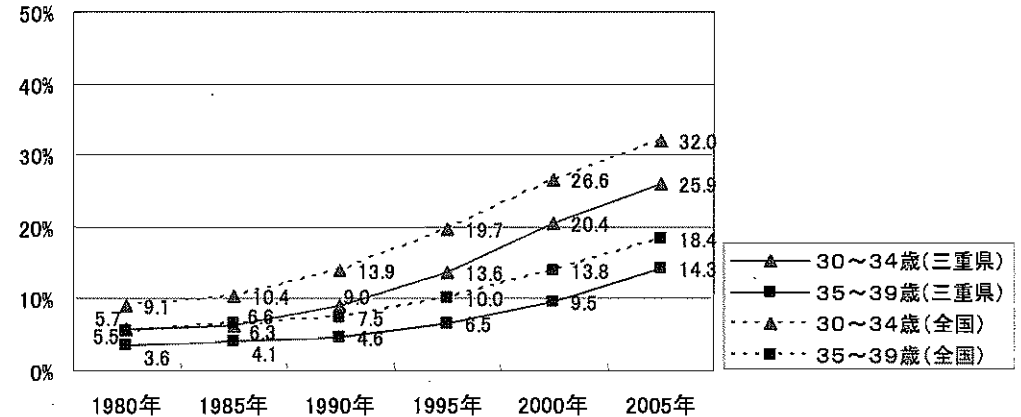
30代未婚率(全体)



30代未婚率(男性)



30代未婚率(女性)

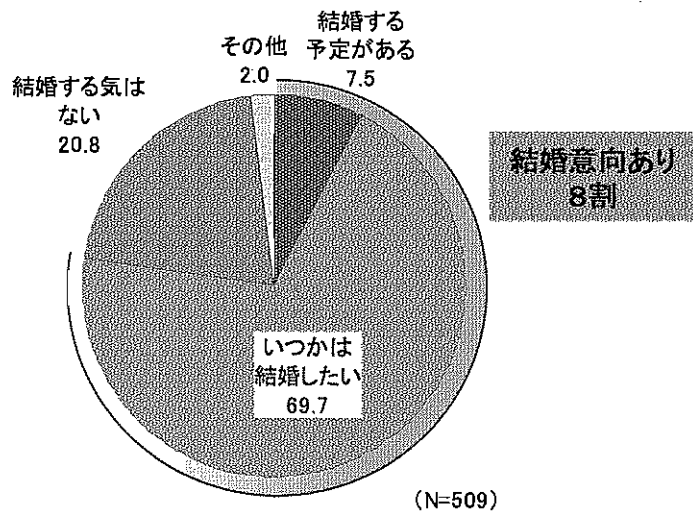


資料:総務省「国勢調査」

結婚の状況 ～未婚化～

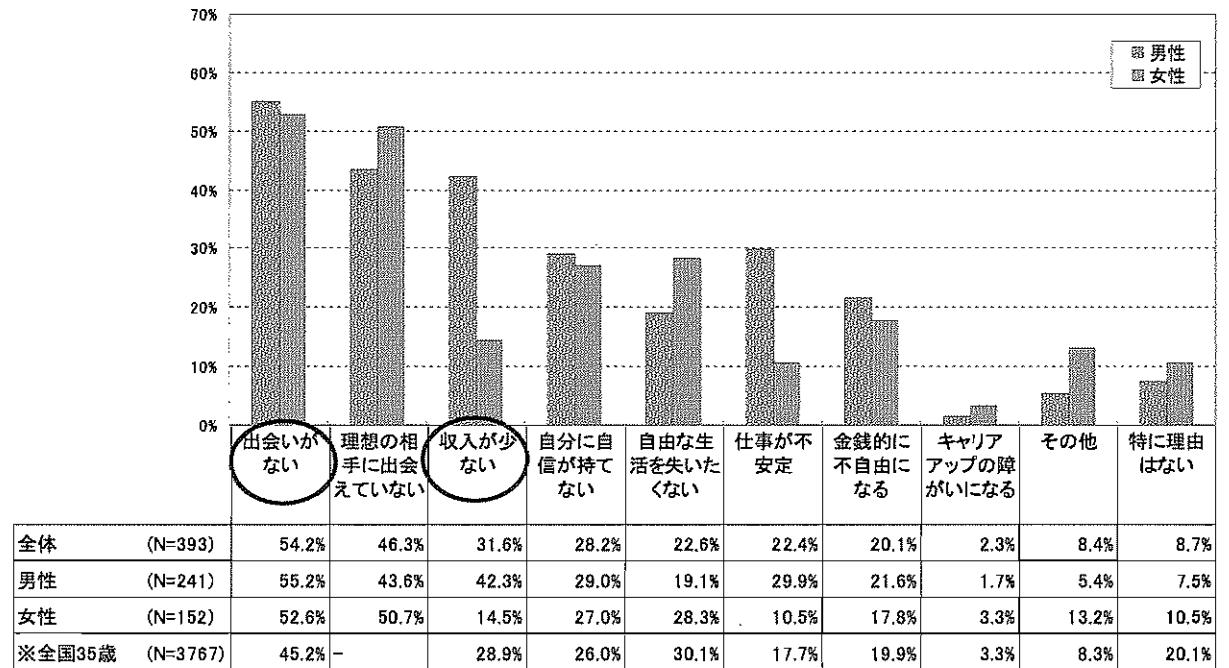
- 単身者の8割は結婚意向があるが、結婚していない
- 男女とも最も多い理由は「出会いがない」
- 男性では4割が「収入の少なさ」をあげている

結婚意向



	結婚する予定がある	いつかは結婚したい	結婚する気はない	その他
全体 (N=509)	7.5	69.7	20.8	2.0
※全国35歳 (N=3767)	13.3	65.0	21.7	-

結婚していない理由

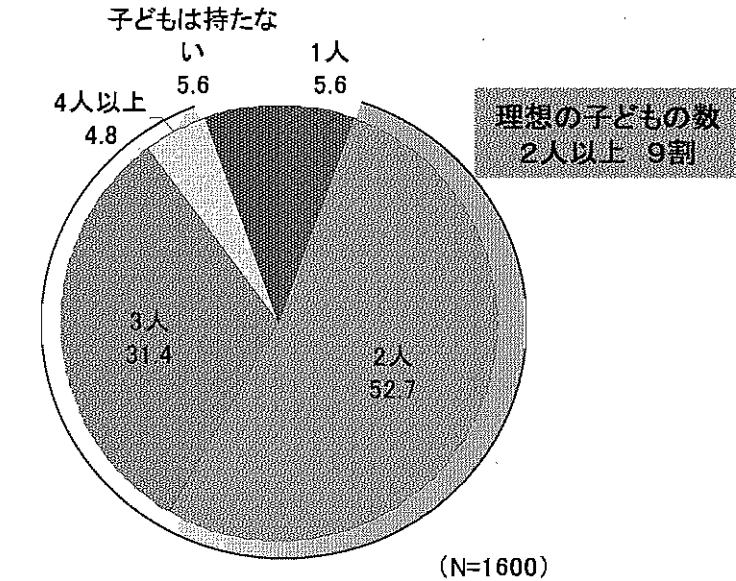


※対象: 配偶者のいない回答者

出産の状況 ～少子化～

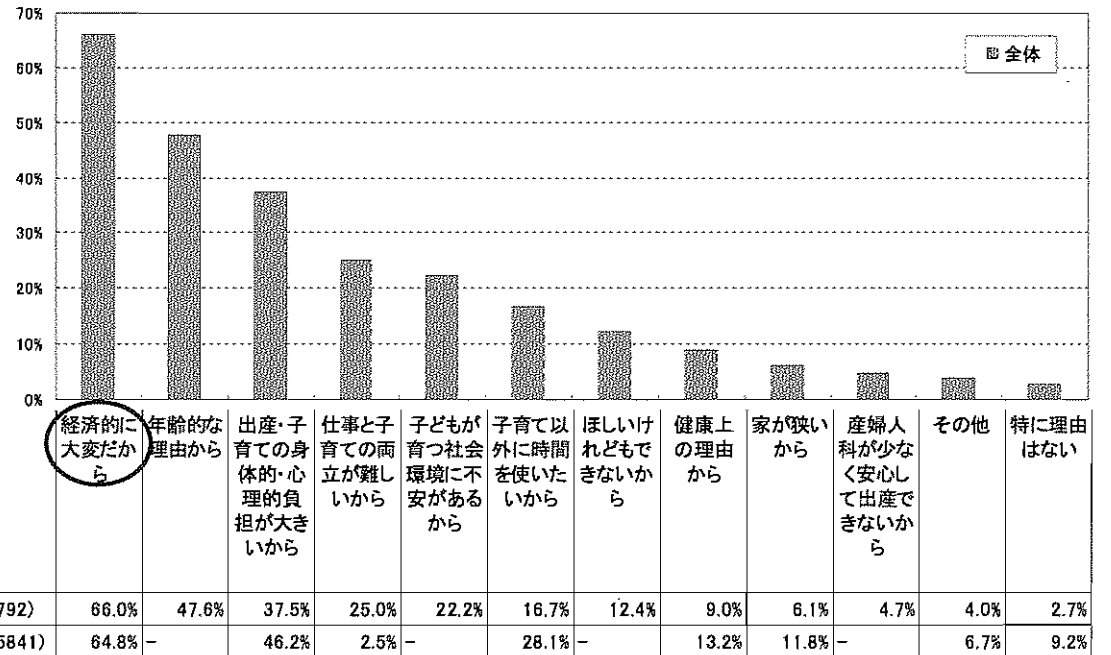
- 理想の子どもの数は9割が「2人以上」
- 理想の子どもを持たない最も多い理由は「経済的な負担が大きい」

理想の子どもの数



	1人	2人	3人	4人以上
全体 (N=1600)	5.6	52.7	31.4	4.8
※全国35歳 (N=10244)	6.2	55.2	30.7	3.1

理想の子どもの数を持たない理由

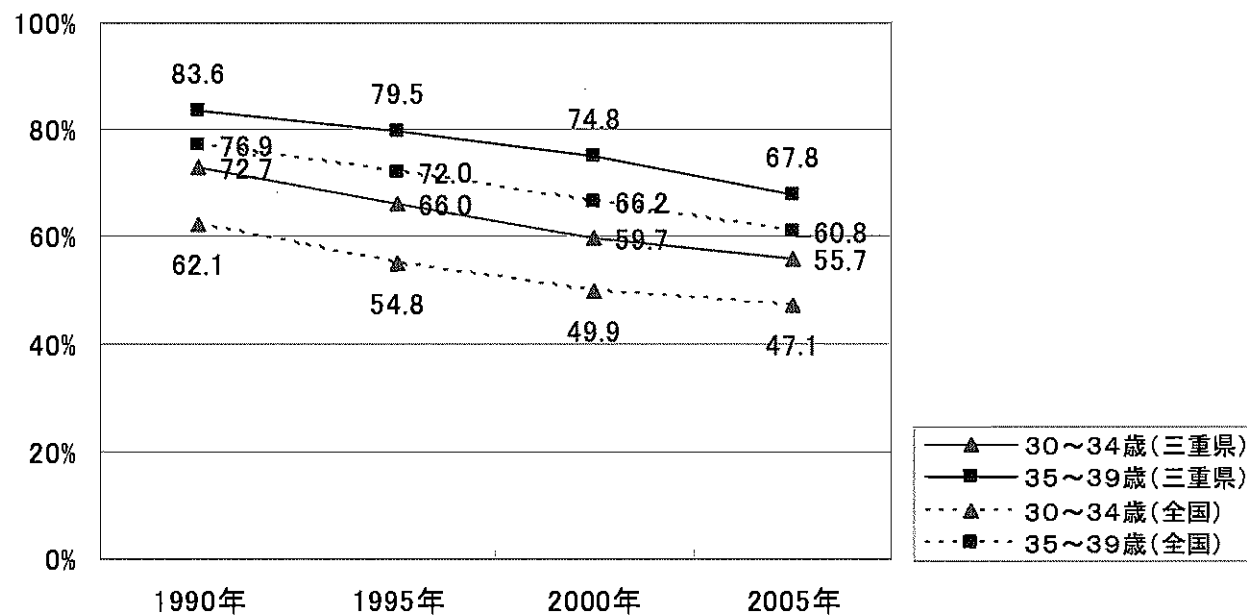


※対象: 理想の子どもの数が、実際に持つと思う子どもの数よりも多い回答者

【参考】 統計データより ～子どもの有無～

- 子どもがいる割合は、ここ10年で30代前半で12%、30代後半で10%減少
- ただし子どもがいる割合は、全国平均と比較すると、30代前半で9%、30代後半で7%多い(2005年時点)

30代子どもがいる割合

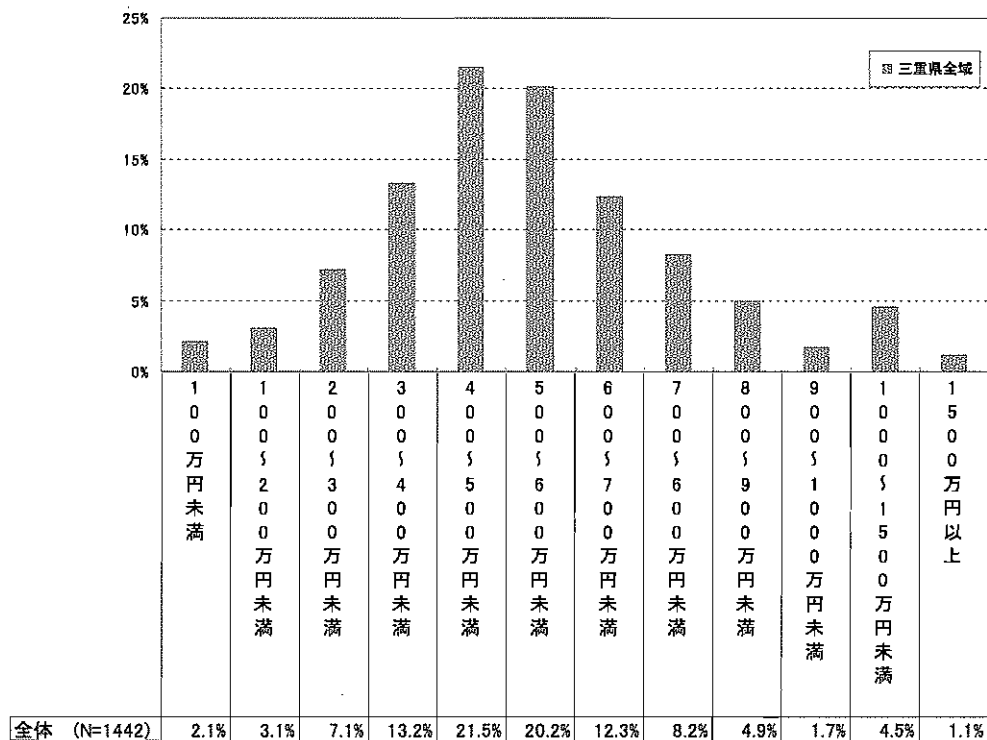


資料:総務省「国勢調査」 世帯主が30代の世帯で子どもと同居している世帯の割合

所得・貯蓄 ～所得水準～

■ 最多世帯所得帯は「400～500万円未満」

30代の世帯年収

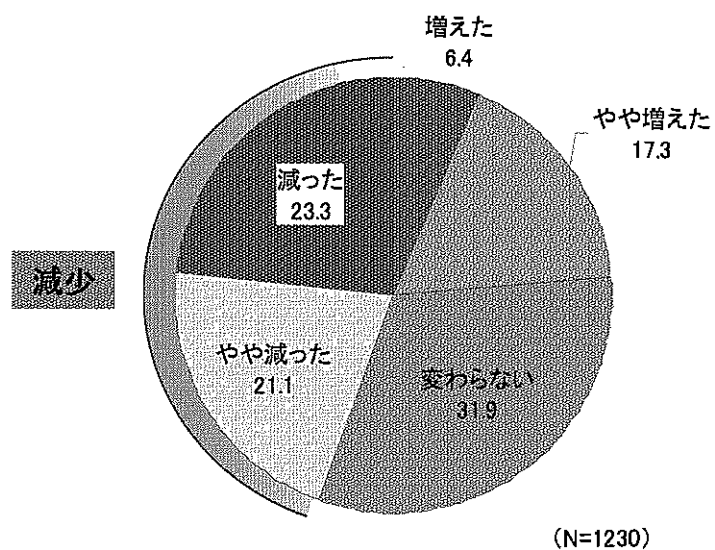


※「わからない、答えたくない」は除く
親世帯など同居する未婚者は自身の年間収入を回答

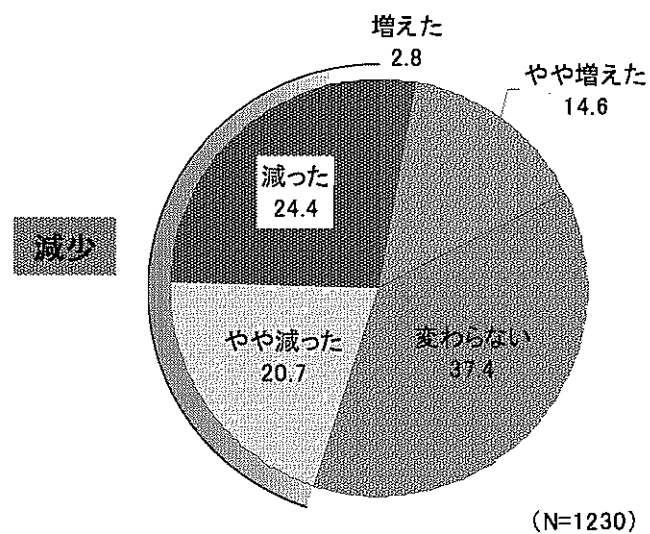
所得・貯蓄 ～低所得化～

■ ここ1年で収入の減少、貯蓄の減少を4割以上が経験

収入変化



貯蓄変化

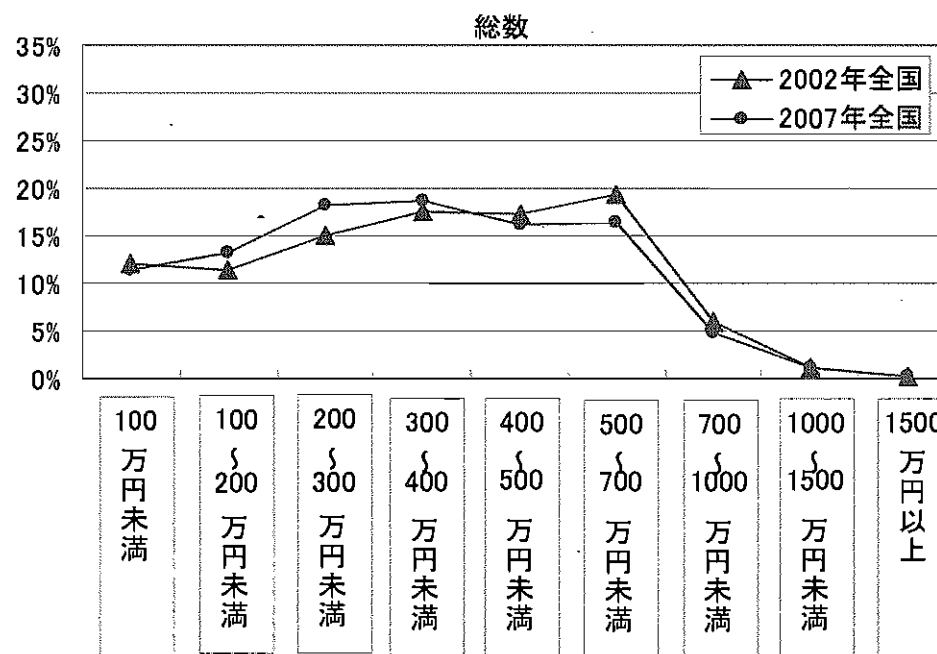
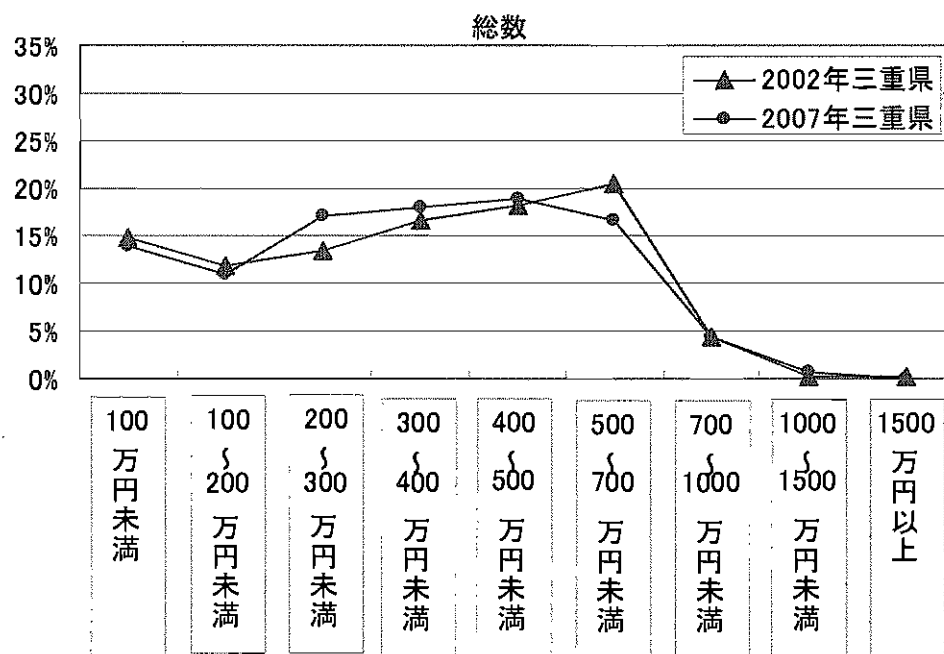


※対象:「自営業・会社などの役員」「正規雇用者」「非正規雇用者」「失業中」の回答者

【参考】 統計データより ～低所得化～

- 5年前と比べて最多世帯所得帯が「500～700万円未満」から「400～500万円未満」に低下している。
- ただし全国の最多世帯所得帯は、「300～400万円未満」であり、全国平均と比較すると高くなっている。

30代の世帯所得分布



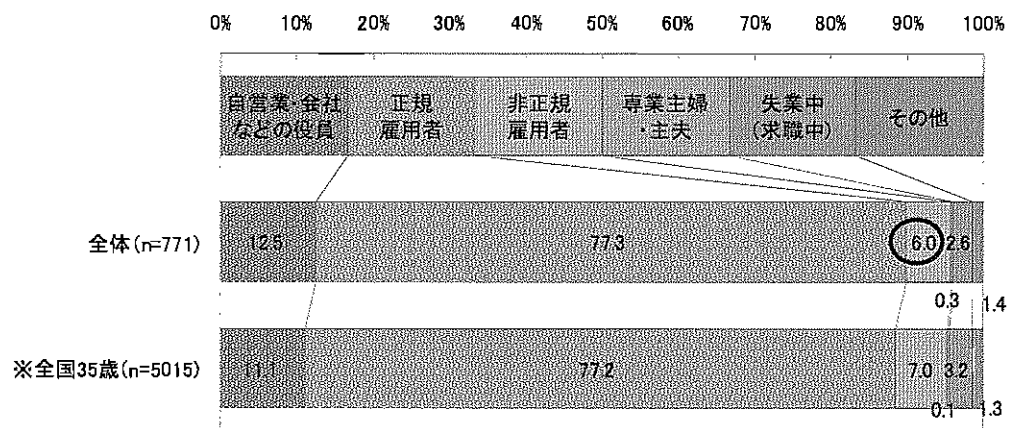
資料：総務省「就業構造基本調査」

世帯主が30代の世帯の所得分布であり、今回の調査結果とは必ずしも一致しない

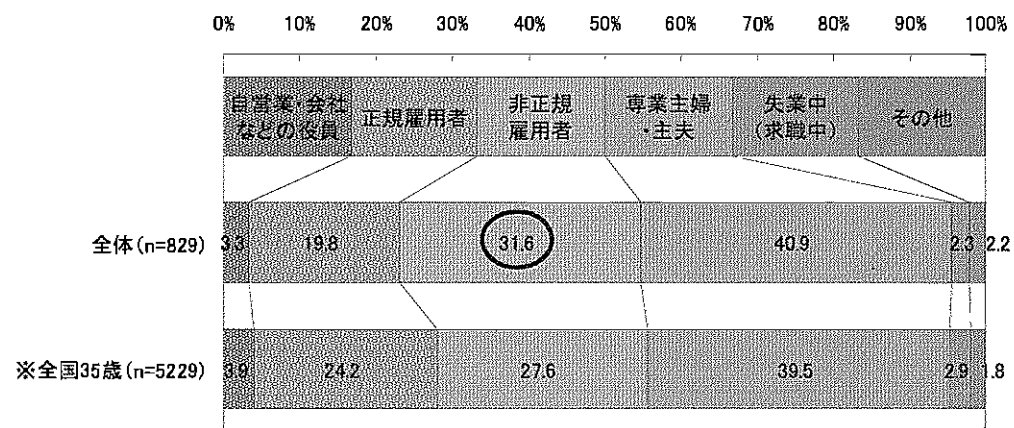
就業状況 ～非正規化～

- 男性は8割が正規雇用者、非正規雇用者は6%
- 女性は2割が正規雇用者、非正規雇用者は32%

男性



女性

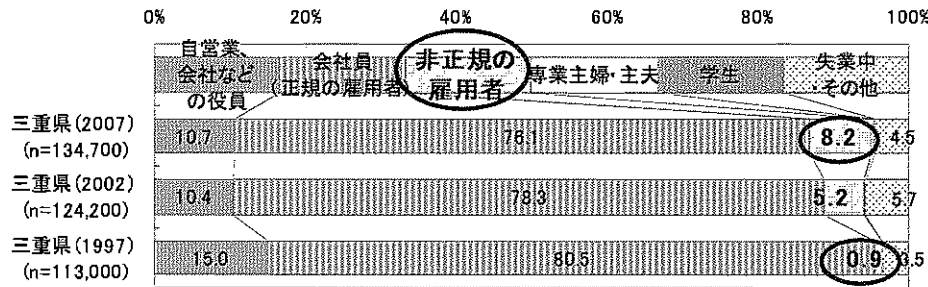


【参考】統計データより ～非正規化～

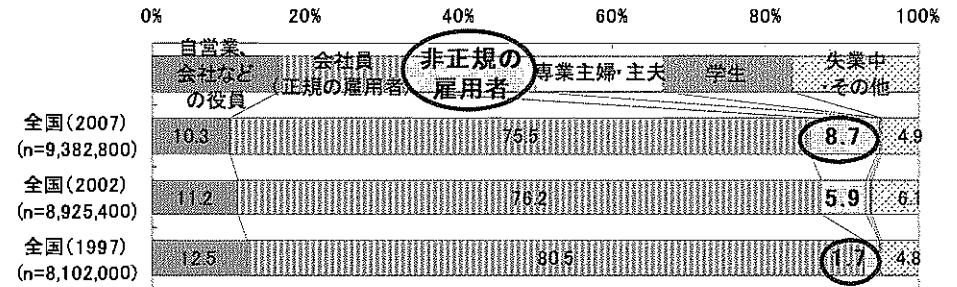
- 非正規雇用者の割合がここ10年で男性は7%、女性は10%増加
- 非正規雇用者は全国でも同様に増加の傾向

職業(男性)

三重県

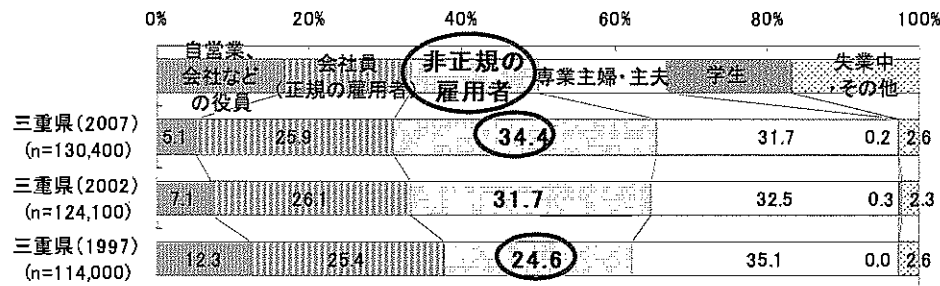


全国

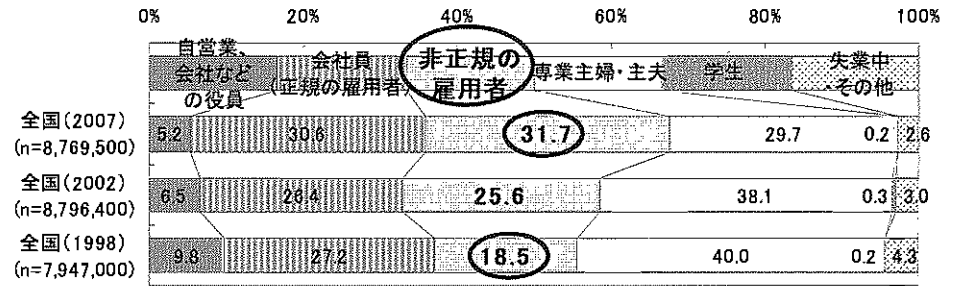


職業(女性)

三重県



全国

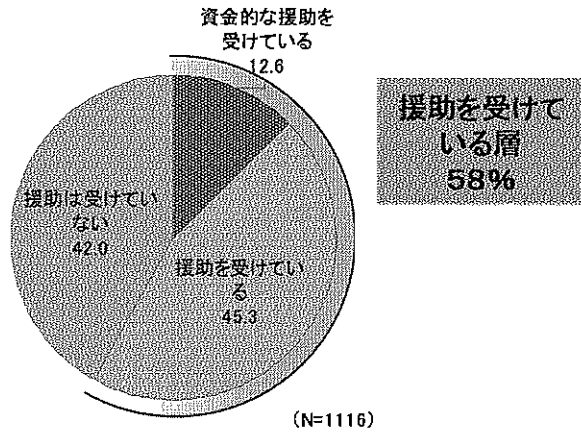


資料:総務省「就業構造基本調査」

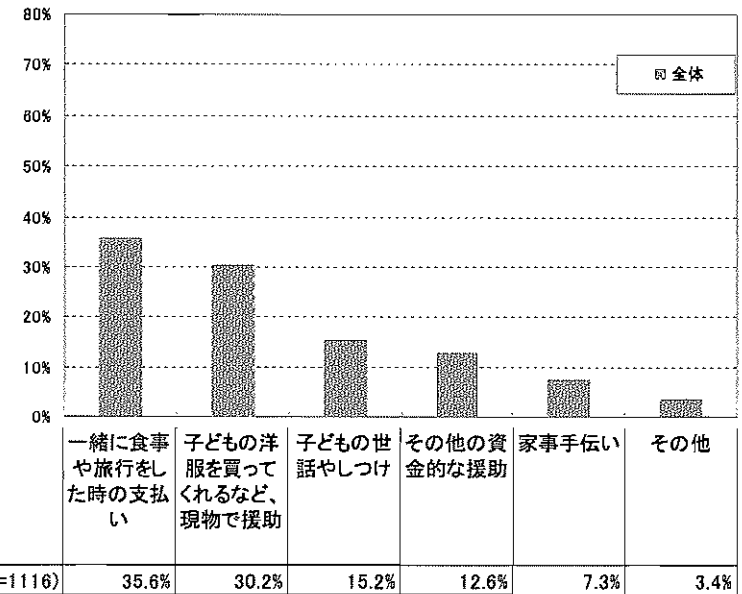
親世帯からのサポート

- 親世帯非同居の58%は、親世帯から経済的・非経済的な支援を受けている
- 親世帯同居の75%は、生活費の半分以上を親に負担してもらっている

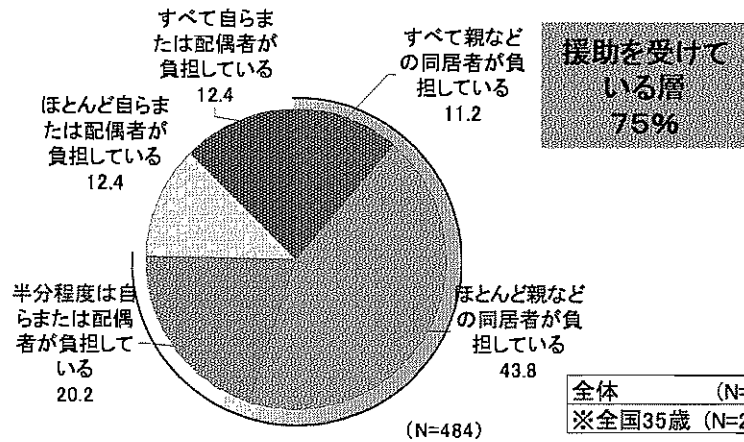
親からの援助(親と非同居)



援助内容



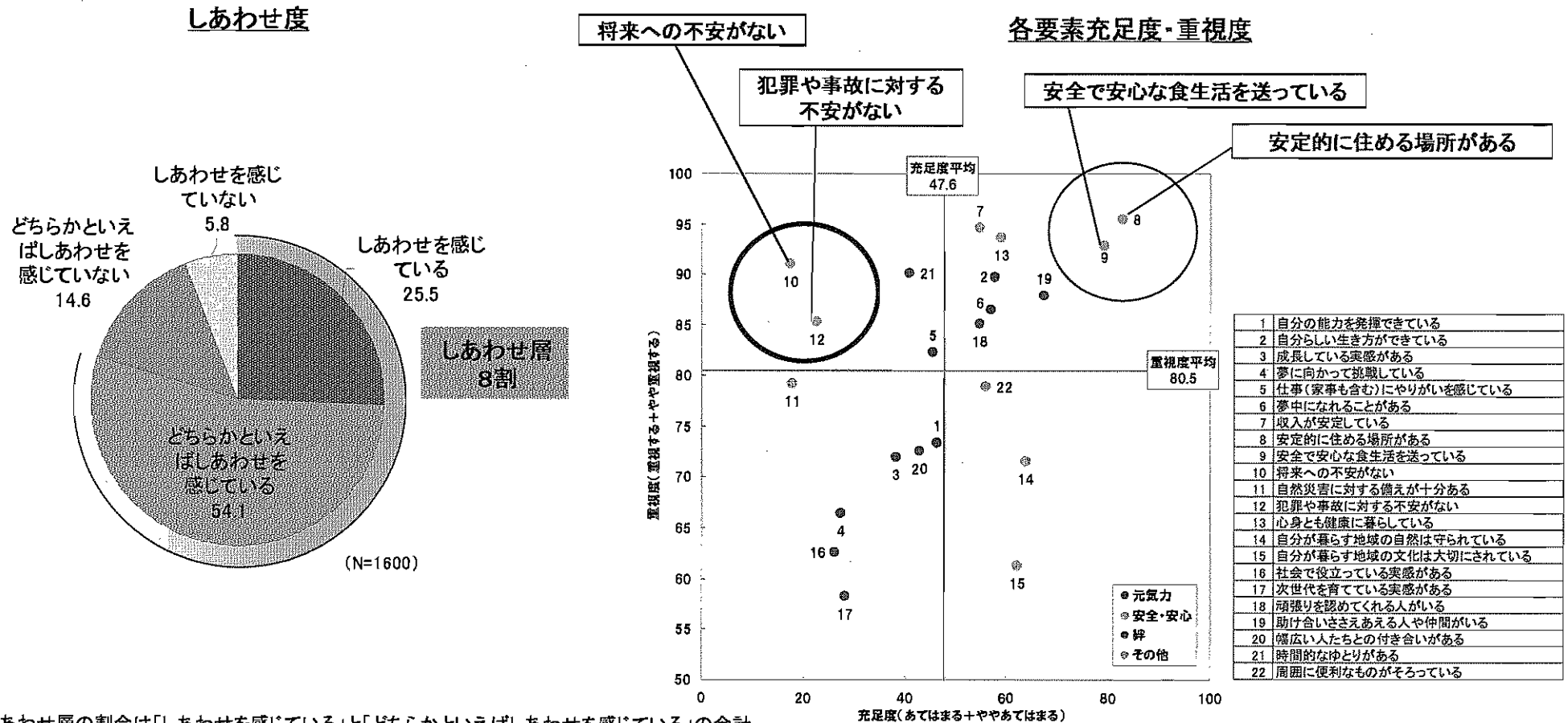
生活費の負担状況(親と同居)



	すべて親などの同居者が負担している	ほとんど親などの同居者が負担している	半分程度は自らまたは配偶者が負担している	ほとんど自らまたは配偶者が負担している	すべて自らまたは配偶者が負担している
全体 (N=484)	11.2	43.8	20.2	12.4	12.4
※全国35歳 (N=2577)	25.0	13.6	37.1	13.8	10.5

しあわせ度

- しあわせ層は8割
- 関連要素のうち重視度・充足度ともに高いのは「安定的に住める場所がある」「安全で安心な食生活を送っている」
三重県の地域特性が表れていると考えられる
- 重視度は高いが充足度が低いのは、「将来への不安がない」、「犯罪や事故に対する不安がない」

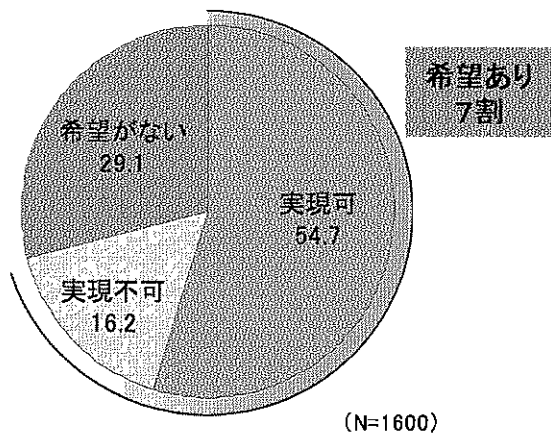


しあわせ層の割合は「しあわせを感じている」と「どちらかといえばしあわせを感じている」の合計

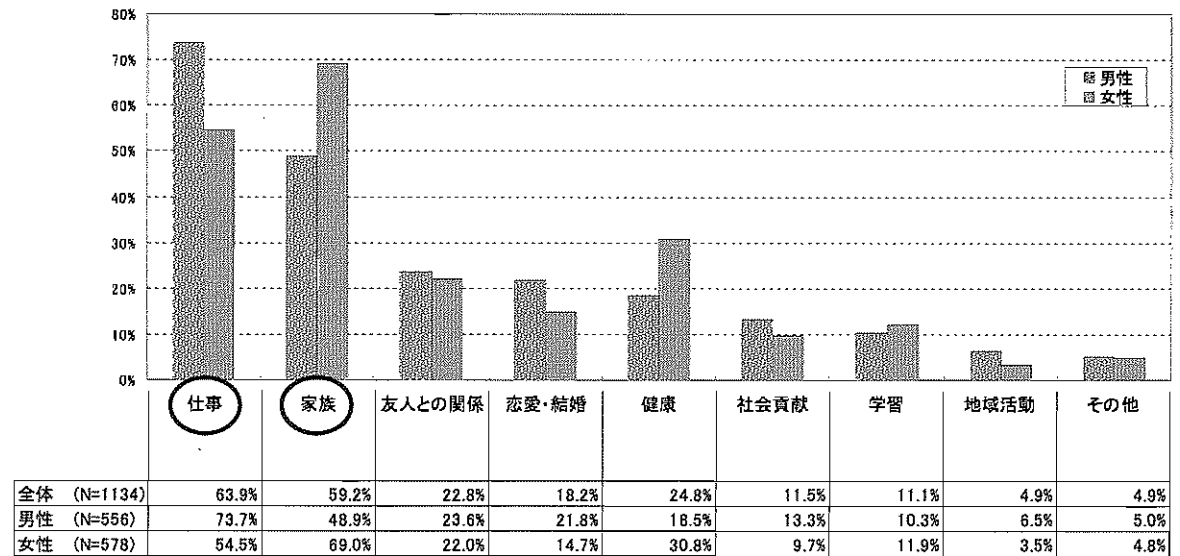
希望の有無(実現したいこと)

- 希望あり(実現したいこと)層は7割、半数以上は実現可能と考える
- 希望の内容で最も多いのは男性は「仕事」、女性は「家族」

希望(実現したいこと)の有無



希望(実現したいこと)の内容

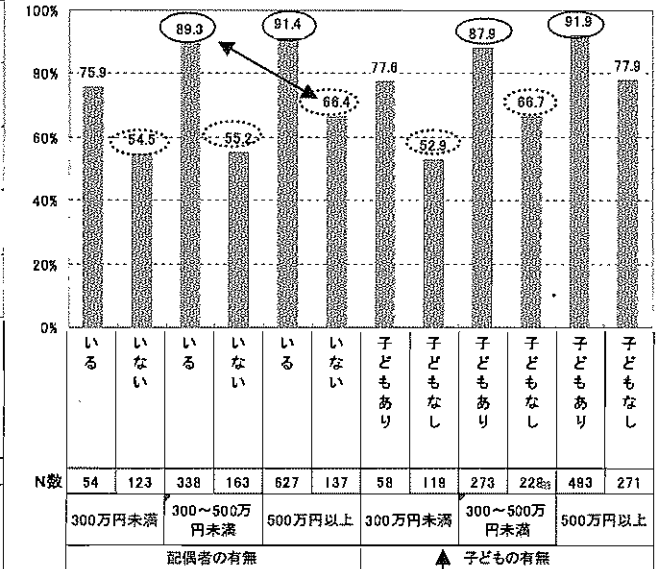
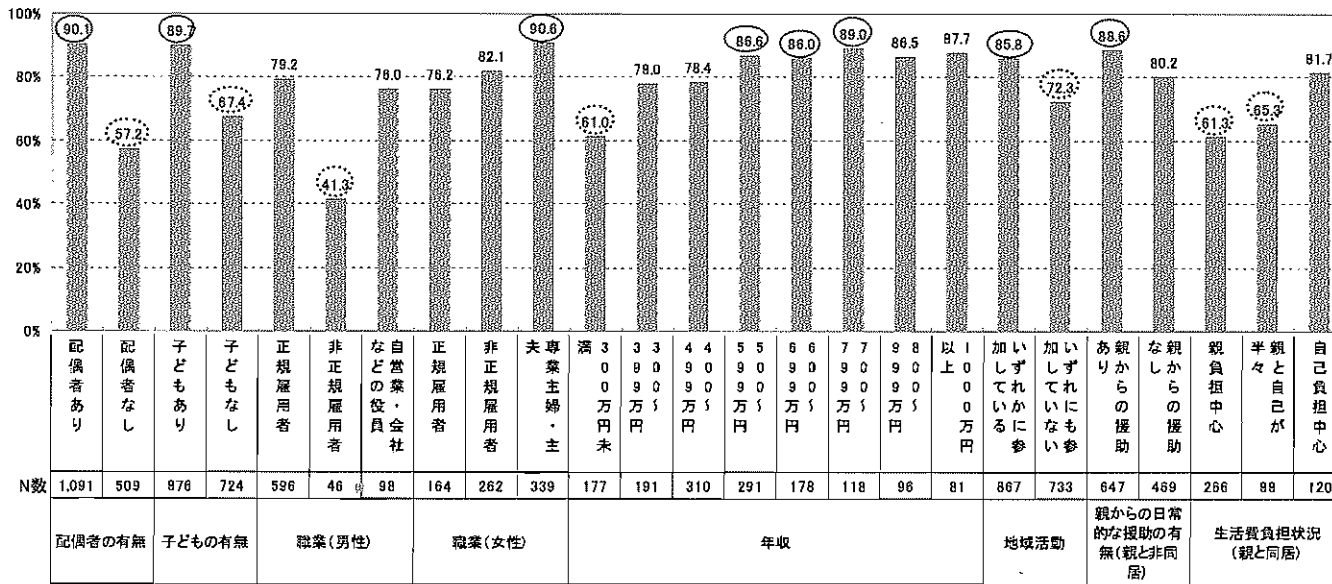


※対象: 将来の自分の仕事や生活に希望があると答えた回答者

しあわせ度 ～属性による違い～

- しあわせ層は次のグループで少ない傾向にある
「未婚者」「子どもなし」「男性非正規雇用者」「低所得者」「いずれの地域活動にも参加していない」「親世帯が生活費を負担(親と同居)」
- また、年収500万円以上で配偶者がいない層よりも、年収300～500万円で配偶者がいる方がしあわせ層の割合は高い

しあわせ層の割合(属性別)



年収層で分けてみた場合

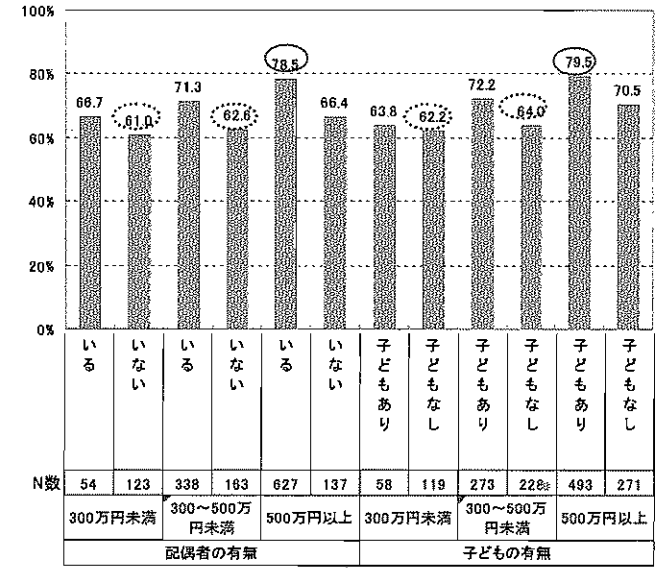
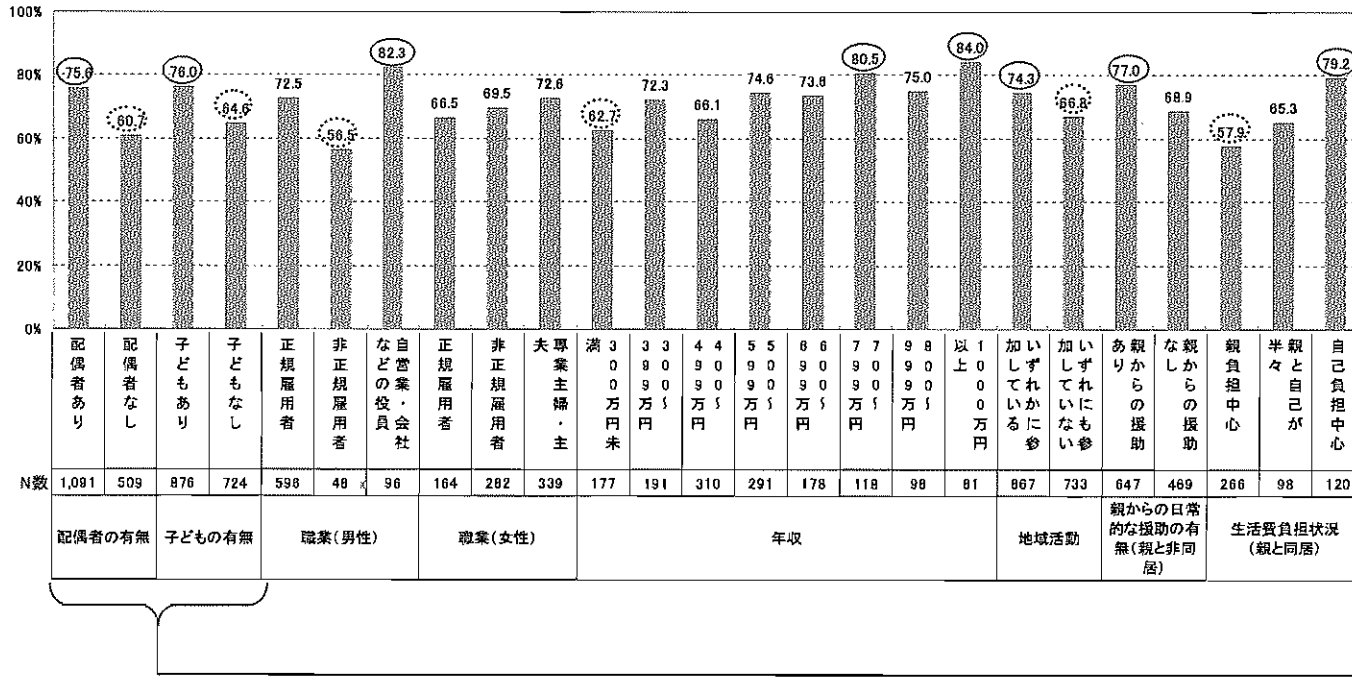
※職業においてN数が30未満の「男性:専業主婦」「女性:自営業・会社などの役員」及び「その他」は除外

凡 ○ 全体平均からの有意差あり(危険率5%)、正の方向
例 ◌ 全体平均からの有意差あり(危険率5%)、負の方向

希望の有無 ～属性による違い～

■ 希望あり層は次のグループで少ない傾向にある
 「未婚者」「子どもなし」「男性非正規雇用者」「低所得者」「いずれの地域活動にも参加していない」「親世帯が生活費を負担(親と同居)」

希望あり層の割合(属性別)



年収層で分けてみた場合

※職業においてN数が30未満の「男性:専業主夫」「女性:自営業・会社などの役員」及び「その他」は除外

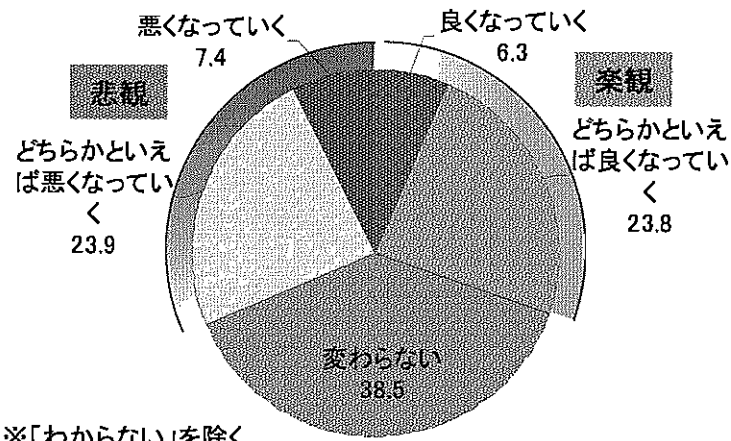
凡 ○ 全体平均からの有意差あり(危険率5%)、正の方向
 例 ◌ 全体平均からの有意差あり(危険率5%)、負の方向

将来展望

- 楽観と悲観が3割ずつ
- 7割以上が「今後の収入や資産の見通し」を不安に感じている

「あなたの生活はこれから先、どうなっていると思いますか」

将来的な不安



(N=1435)

	良くなっていく	どちらかといえば良くなっていく	変わらない	どちらかといえば悪くなっていく	悪くなっていく
全体 (N=1435)	6.3	23.8	38.5	23.9	7.4
※全国35歳 (N=10244)	3.5	11.7	35.7	31.5	17.6

